

# 高知県におけるショウガ産地の立地特性

—香美市を中心として—

1130461 徳弘みどり

高知工科大学マネジメント学部

## 1. 概要

本研究は、高知県香美市を中心としてショウガ生産地域の成立過程を探り、高知県におけるショウガの立地特性を環境可能論的な視点から明らかにすることを目的とする。その結果、高知県に置けるショウガの生産地域は、温暖な気候、ショウガ肥大期の十分な降水量、保水性に優れた土壌がショウガ栽培にとって重要な自然的特性であるが、産地を形成する要因は、ショウガ栽培の経験や知人からの技術移転による部分が大きく、ショウガブームにより高収入が期待される反面、栽培方法が経験によるところが大きいため、新規参入を阻んでいる可能性が示された。

## 2. 背景

近年、日本全国でショウガブームが起こり、様々な用途でショウガが用いられている。具体的な用途としては、薬品やサプリメント、調味料、飲料水、お菓子などが挙げられる。

ショウガは、明治時代初期に中国の「大ショウガ」というものが長崎県に上陸し、その後、九州、四国、関西、関東へと広がり、現在に至っている。現在のショウガ収穫量日本一は高知県であり、日本全国のショウガ収穫量の40～50%を占めている。このことから、高知県でショウガ栽培が成立しているのには何らかの理由が存在すると考えられる。

既往研究においては、野菜や果物の立地特性に関する研究が数多く行われているが、香辛料の生産・立地特性に関する研究はまだ存在していない。

高知県でのショウガ栽培の成立要因を探り、高知県におけるショウガの立地特性を明らかにすることで、ショウガの栽培・生産に携わる企業や農家、さらには、農業界の今後の発展に貢献できる可能性が考えられる。

## 3. 研究方法

本研究は、はじめに、農林水産省や高知県統計書などの統計情報やショウガに関する文献から、高知県のショウガ産地の現状を把握し、問題点を探る。次に、高知県香美市のショウガ農家・ショウガ栽培に携わる企業・JA土佐香美・高知県農業振興センターを対象として、ヒアリング調査を実施す

る。それと同時に、実際にショウガの収穫作業を体験し、ショウガ栽培について理解を深める。最後に、ヒアリング調査結果から、高知県におけるショウガの立地特性を環境可能論的な視点から明らかにする。

## 4. 結果

ショウガの栽培・生産に携わる農家、企業へショウガ栽培に関するヒアリング調査を実施した。ヒアリング対象者は、香美市在住のT氏（栽培面積：2.5ha、栽培年数：約20年）、芸西村在住T氏（栽培面積：0.6ha、栽培年数：約8年）、坂田信夫商店の3者である。3者にヒアリングを実施し、その結果を意識モデルとして整理した。

### 4.1 ショウガ栽培における自然的特性

ショウガの栽培・生産において重要とされる自然的特性は、以下の通りである。

- ① 気温・・・8月～10月20日頃までの気候が温暖であること。収穫期（10月後半から11月）の気温の日較差が10℃あること。11月後半まで霜が降りないこと。
- ②降水量・・・9月の降水量が多いこと
- ③土壌・・・保水性に優れていること。

### 4.2 ショウガ栽培における社会的要因

#### 4.2.1 ショウガ栽培を行う動機

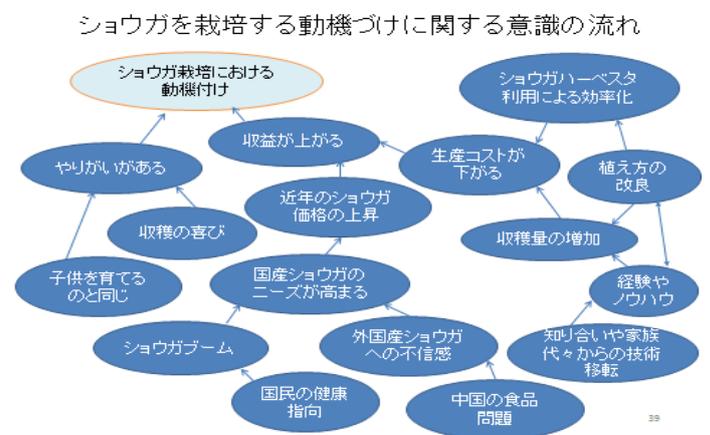


図 4-2-1 ショウガを栽培する動機づけに関する意識マップ

ショウガ栽培を行う動機は大きく分けてやりがいと収益

の二つである。

近年の国民の健康志向や中国食問題から国産ショウガのニーズが高まり、ショウガ価格が上昇している。これにより、ショウガ栽培の収益が上がり、農家がショウガ栽培を促進させる要因となっている。

#### 4.2.2 ショウガ生産における不安定要因

ショウガ栽培における不安定要因として一番大きいのは、収益の不安定性である。ショウガ生産量は他の野菜と比較して年変動が大きい作物である。ショウガ生産に影響を与える要因としては、気候要因、病虫害、連作対応の3点である。

#### 4.2.3 不安定要因に対する対応状況

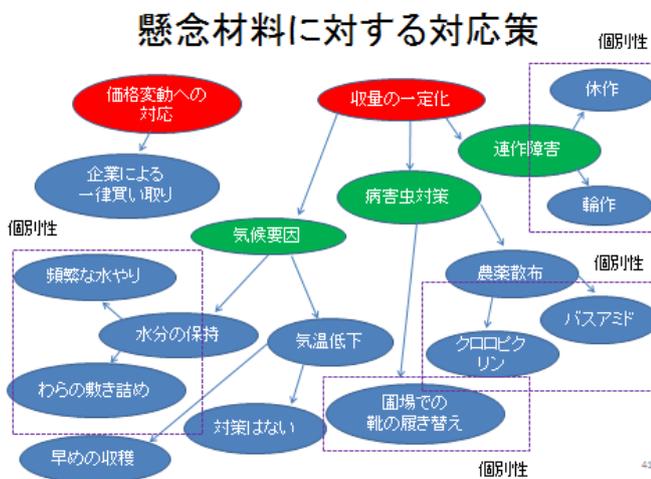


図 4-2-3 不安定要因に対する対応策

ショウガ栽培における不安定要因への主な対応策は、価格変動への対応と収量の一定化が挙げられる。価格変動への対応は、ショウガの一括栽培を行う企業による一律買い取りが行われており、収益の安定化を求めて企業と栽培契約する農家が現れている。また、収量の一定化については、気候変動、病虫害、連作障害への対応が挙げられる。気候変動への対策は、土壌水分保持のため、水やりやわらの敷き詰めが行われている。次に、病虫害対策としては、農薬散布や圃場での靴の履き替えが各農家で行われている。最後に、連作障害対策としては、休作や輪作が行われている。

これらのことから、ショウガ栽培における不安定要因に対する対応策は各農家により異なっており、これは、長年ショウガ栽培して得られた経験や知人からの技術交流によるところが大きい。

### 5. 高知県におけるショウガの立地特性

#### 5.1 自然特性

高知県は8月～10月の期間で最高気温が25℃以上の日の

割合が83%（2012年度）と温暖である。また、10月20日～11月までの気温日較差10℃の日も約30日（2012年度：対象期間40日）と多い。降水条件は、一年を通して9月（ショウガ肥大期）の降水量が多いことである。高知県は9月の降水量が多く、条件を満たしている。土壌は、保水性に優れた土壌が存在することである。窪川町や香美市のショウガ産地には「多湿黒ボク土壌」という保水性に優れた土壌が存在する。このことから、高知県はショウガ栽培に適した自然条件である。しかし、香美地区のショウガ産地は河岸段丘が存在し、水はけが良いため、収穫されるショウガの粒は小さくなる。

#### 5.2 人文特性

環境可能論的なアプローチからすると、人間の生産活動は自然条件のみで左右されることはない。そこで、高知でショウガ栽培を実施する人文特性について検討した。

人文特性として挙げられるのは、収益、ショウガ収穫量の変動への対応、企業による輸入ショウガへの対策、ショウガの需要（ショウガブーム、中国の食品問題による）などである。この中でも特に重要なものは、収益とショウガ収穫量の変動への対応である。この二つは、ショウガ栽培を行う動機付けの主な要因になっているからである。

ショウガ収穫量の変動への対応は農家ごとに異なるが、ショウガ栽培には大きな収益が見込める反面、長年の経験やノウハウ、知人からの技術移転などが必要であり、これがショウガ栽培の新規参入を阻んでいる。この人文特性が、高知県におけるショウガの産地を決定づけている。

### 6. 今後の課題

今後の課題としては、以下の3点が挙げられる。

- ・高知県におけるショウガ栽培、生産の維持と拡大への取り組みの強化
- ・ショウガ農家の後継者不足への対策の提案
- ・ショウガ生産における大手企業参入への対応策の模索

#### 引用文献

- [1] 社団法人 国際農林業協力協会 2002. ショウガ科香辛料の生産と利用：18-47
- [2] 清水克志 2008. 日本におけるキャベツ生産地域の成立とその背景としてのキャベツ食習慣の定着. 地理学評論 81: 1-24.
- [3] 坂本英夫 1988. 北海道富良野におけるニンジン生産の状況と立地. 人文地理 40: 1-19